

# 美術研究所時報

## 正木直彦氏薨去

創立當初の美術研究所主事たりし東京美術學校名譽教授正木直彦氏は永らく病氣の處三月二日薨去された。葬儀は同五日小石川音羽護國寺に於て執り行はれた。

大正十三年七月、故帝國美術院長子爵黒田清輝氏薨去に際し、其の遺言により美術獎勵事業の爲に出捐せる資金を以て行ふべき事業の選定を、遺言執行人代表伯爵樺山愛輔氏より一任せられたる伯爵牧野伸顯氏は、帝國美術院長福原鏖二郎氏及當時東京美術學校長たりし同氏を通じて該事業に就き諸方面の意見を徴したが、之によつて故黒田子爵記念事業の一として美術研究所の設立が採擇決定せらるるに至つた。而して昭和元年十二月美術研究所設立準備委員會の設置に當り委員長に就任、諸般の準備を完了すると共に、之を政府に寄附の手續を執り、昭和五年六月勅令を以つて美術研究所設置せらるゝや、美術研究所主事に補せられ、所務を掌理することゝなつた。同年十一月帝國美術院長を仰付けられると同時に主事を辭したが、爾後終始して美術研究所を外部より支援せられ、例へば美術懇話會の設立を首唱し、自ら理事長として會務を統理せられるなど同氏の名は本研究所以及永らく記憶せらるべく、今その薨去に遭ひ、本研究所以及永らく關係を略記し、茲に深く哀悼の意を表するものである。

東洋美術國際研究會は三月十二日午後八時より帝國ホテル講堂に於て、文學博士瀧精一氏の「佛教と日本美術」と題する第一回公開講演會を開催した。講演終了後博士の幻

燈板による古美術品の説明があり、内外人多數の聴講者があつた。

又三月二十九日午後五時より帝國ホテル講堂に於て今般伊太利亞大使G・アウリツチ氏の歸國に際し講演會を開催し、同大使の「日本美術の印象」と題する講演があつた。

## 寄贈圖書

東方學報 東京第十冊之二  
大日本帝國文部省第六十三年報 上下  
國寶成異閣  
寄贈雜誌

## 寄贈雜誌

產業工藝	三ノ一	書道	九ノ二
美術月報	二ノ一	美術日本	六ノ一
建築雜誌	五ノ六五八	現代美術	八ノ一
美術街	七ノ一	建築史	二ノ一
美術苑	四二三	三田評論	五〇九、五一〇
日本建築士	一三ノ二	畫觀	七ノ二
教育美術	二六ノ一	最高美術	九ノ二
美術世界	六ノ二	アトリエ	一七ノ二
畫室	四ノ二	エツチング	八六
美術育	三八、三九	新建築	一六ノ一
文藝學	一六ノ二	藝術日本	八ノ五一
思想	八ノ二	南畫鑑賞	九ノ二
學校美術	二二三	貨幣	二五一
美術資料	一四ノ二	工藝ニユース	九ノ二
美術タイムス	四ノ三	史迹と美術	一一ノ二
國寶	五〇	旬刊美術	二ノ三
美術殿	三ノ二	國際建築	一六ノ二
美術研究	八ノ二	汎工藝	一八ノ二
Mouseion 1939, Sep-Oct, Nov.	一一ノ二	建築世界	三四ノ二
Bulletin of the Cleveland Museum of Art, Vol.27, No. 1			
Bulletin of the Art Institute of Chicago, Vol. 34, No. 1			
Bulletin of the Metropolitan Museum of Art, Vol. 35, No. 1			

## 美術研究 第百號 (毎月一回)

昭和十五年四月二十日印刷  
昭和十五年四月二十五日發行

定價貳圓五拾錢  
送料十錢

編輯兼發行者

## 美術研究所

印刷 山人 三郎 太

東京市下谷區二長町一

原色網目版印刷

半七寫眞製版印刷所

東京市品川區大崎本町三ノ五八二

クロタイプ印刷

大塚 巧 藝 社

東京市本郷區金助町四五

## 發賣所

東京市神田區一ツ橋二丁目三番地

岩波書店

電話九段(33)〇一八七番(以下4)  
版發口座東京二六二四〇番

## 豫約購讀會費

毎月 二圓六十錢 (送料共)  
半年分 十五圓 (送料共)  
一年分 三十圓 (送料共)

一切前金にて振替口座東京二六二四〇番岩波書店へ御拂込下さい。  
郵券代用は一割増に願ひます。